

狭木之寺間陵樋門改修工事箇所 の調査

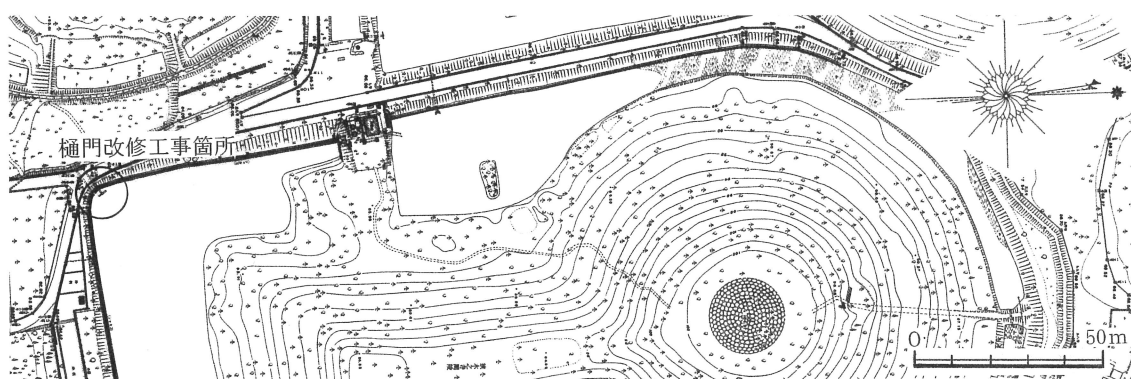
奈良盆地の北郊に位置する垂仁天皇皇后日葉酢媛命の狭木之寺間陵は、全長200mを超える前方後円墳である。当域の巨大前方後円墳のなかでは、その埋葬施設、副葬品、埴輪などの詳細が知られる稀有な例であり、基準資料の一つとなっている。近年では昭和60年に外堤内法部分の調査、平成2年には墳丘裾部の調査が行われ、その成果がそれぞれ本誌第38号と第43号に発表されている。

今回、外堤の前方部西隅角付近に位置する樋門を改修することになり（第40図）、平成14年1月21日～24日、その基礎部分の掘削（長さ2.7m以上×幅約1.5m×深さ約1m）に立ち会った。掘削箇所は既存の樋門・樋管のために、かつて掘削された部分が大部分であり、その埋戻し土（Ⅱ）であった。一部、新規に掘削された部分は、濠内堆積土（Ⅰ）が二層あり、その下に地山の砂質土（Ⅲ）が認められた（第41図）。昭和60年の外堤内法裾の調査時の所見に加えることはなかった。

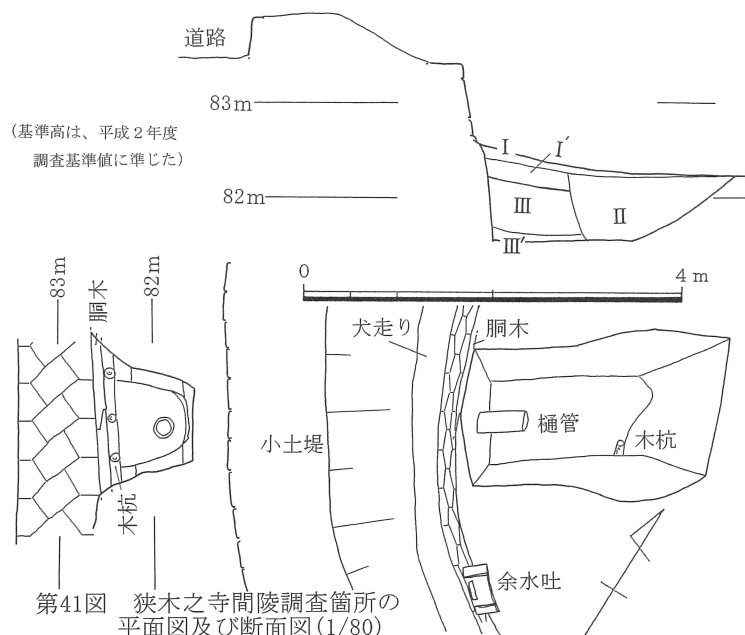
遺物は認められなかった。

工事は予定どおり施工した。

（福尾 正彦）



第40図 狭木之寺間陵調査箇所の位置図 (1/2000)



第41図 狭木之寺間陵調査箇所の平面図及び断面図 (1/80)